

古代アメリカ学会 第4回東日本部会研究懇談会のお知らせ

第4回東日本部会研究懇談会を以下の要領で開催します。ふるってご参加下さい。また非会員の方も参加できますので、関心のお持ちの方にはぜひお声をおかけ下さい。参加の事前登録は必要ありません。

【研究懇談会概要】

「権力のマテリアリティ」と題した今回の研究懇談会では、古代国家における権力をいかに捉えるかという理論的研究と、それをどう考古学的に検証できるのかという方法論について、メキシコ中央高地の大都市遺跡テオティワカンのデータをもとにした論考が発表されます。またコメンテーターを迎え、このテーマについての議論を広げたいと思います。なお今回は試験的に、日本でなかなか口頭発表の機会のない海外在住会員を迎えての開催となります。

発表「権力の多次元性：テオティワカンにおける都市建設から考える」

【発表者】村上達也（トゥレーン大学教養学部人類学科准教授）

【コメンテーター】青山和夫（茨城大学人文学部教授）・関雄二（国立民族学博物館教授）

【概要】権力関係は多次的であり、異なる物質文化の生産・流通・消費は必ずしも首尾一貫した一つの次元あるいは支配・被支配関係を形成しているわけではない。本発表では、マイケル・マンが提唱した国家の「インフラストラクチャー的権力」という概念に注目し、異なる次元の権力関係をどのように考古学的に検証できるのか、テオティワカンの都市建設における労働量と建築材（漆喰と切石）の分析を通して考察する。インフラストラクチャー的権力は強制的に行使される「専制的権力」と対比され、国家がそのインフラストラクチャーを通して深く市民社会に浸透することで社会的諸活動を調整する力のことである。インフラストラクチャー的権力の行使は国家と異なる社会集団との交渉の上になり立つものであり、一元的な支配・被支配関係という概念では捉えきることのできない社会関係を理解するのに貢献する。さらに、権力の不平等と社会の同一性という相矛盾する現象がいかにして同時に成立するのか考察する材料を与えてくれる。

【日時】2014年12月23日（火・祝）

・発表 14:00～15:30（コメント・質疑応答ののち17:00ころ終了予定）

【会場】：東京大学本郷キャンパス 総合研究博物館7階ミュージアムホール

<http://www.um.u-tokyo.ac.jp/information/map.html>

- ・休館中につき博物館の正面玄関は閉まっておりますので、建物南東側の通用口にお越し下さい。開始時間を過ぎてからのご到着の場合、通用口に掲示した指示に従って入館してください。
- ・通用口から入ったのち、階段の左側のエレベーターで7階にお越し下さい。階段の右側のエレベーターは6階までしか上がりません。

【主催】：古代アメリカ学会

【連絡先】：

- ・東日本部会幹事・鶴見英成（東京大学総合研究博物館）et*um.u-tokyo.ac.jp（*を@に換えて下さい）
- ・古代アメリカ学会事務局 jssaa@sa.rwx.jp